

尾道市立向東中学校 第1学年道徳学習指導案

指導者 尾道市立向東中学校

教諭 池田 直樹 (T1)

教諭 向井 大 (T2)

1. 教材名：公平と不公平（日本文教出版）
2. 主題名：公平とは何か
3. 内容項目：C－（11）公正，公平，社会正義
4. 日時：令和3年12月17日（金）第4校時
5. 学級：1年1組31名（男子18名 女子13名）
6. 場所：体育館

主題観

中学生は、社会の在り方についても目を向け始め、社会の矛盾や課題に気づき、公正・公平への意識も強くなってくる。公平に接するためには、偏った見方や考え方を避けるよう努めることが大切である。しかし、周囲に不公平があっても、多数の意見に同調したり傍観したりするだけで、制止することができないこともある。そのため、いじめや不正な行動等が起きても、勇気を出して止めることに消極的になってしまうことがある。そうした自分との弱さと向き合い、同調圧力に流されずに自分の意思を強く盛ったり、学校や関係機関に助けを求めることをためらったりしないなど、正義と公正を実現するために力を合わせて努力することが大切である。

中学1年生にとって公平は平等と混同されやすい。平等とは、「誰もがみな等しいこと」である。一方公平とは「能力や状況に応じて適切な扱いを受けること」である。しかし、その判断基準が人によって異なるので、公平か不公平かを判断することは難しい。だからこそ様々な視点からものごとを捉え、常に考えながら生活することが求められる。

本教材は、3つの事例から構成されている。事例1は、年齢の違いによってお年玉をもらう金額が違ふこと、事例2は、コンサート会場に入場する際、車いすの人が優先的に入場できること、事例3は、字を書くことが丁寧という理由で学級の班活動でのまとめを一人に任せることである。公平か不公平かを判断する際に何に基づいて判断したのか、共通する判断の根拠を考えていく過程で公平性を保つための判断基準を持つ大切さを理解し、差別や偏見のない社会を築いていくための判断力を養うことができると考え本主題を設定した。

【公平・公正・社会正義の内容項目（小・中学校）】

小学1・2年生

自分の好き嫌いにとらわれないで接すること

小学3・4年

誰に対しても分け隔てせず、公正、公平な態度で接すること

小学5・6年

誰に対しても差別をすることや偏見を持つことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること

中学校

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること

生徒観

本学級生徒の道徳に対するアンケート結果は以下の通りである。

質問内容	肯定的回答
道徳科の勉強は好きだ	61%
道徳科の勉強はためになると思う	84%
道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている	56%
道徳科の授業では友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしている	74%
道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活にいかしている	71%

本学級の生徒は、「道徳科の勉強はためになる」という質問に対して、肯定的回答をした生徒が84%と他の項目と比べて高く、道徳科の必要性を感じている。また「道徳科の授業では友達と話し合うなどして、自分の考えを広げたりしている」という質問に対しても肯定的回答をした生徒は74%で友達との話し合いや対話を通して学習内容を深めたり、様々な視点から考えることが比較的得意な生徒が多い。一方で「自分の生活を振り返りながら考えている」という質問に対しては、肯定的な評価が56%と低く、自分の生活や体験を想起させながら、道徳的価値について、自分との関りで考えさせていく必要がある。

さらに本時の内容に関するアンケート結果は以下のとおりである。

公平と不公平の判断基準を持っている		公平と不公平の違いとは何か
とても当てはまる	13%	<ul style="list-style-type: none"> • 平等か不平等かという違い • 誰かが特別扱いされるのかされないかの違い • 公平は男女平等で不公平は男女不平等 • 「全員を同じ物差して測ること」が公平で「違う物差してはかること」が不公平
やや当てはまる	23%	
あまり当てはまらない	61%	
全く当てはまらない	0%	

「公平と不公平の判断基準を持っている」という質問に対して、「とてもそう当てはまる」と「やや当てはまる」と回答した生徒が約4割と少ない。さらに肯定的な回答をした生徒に「公平と不公平の違いは何か」という質問に対しては、公平を平等と混同して捉えている生徒が多くいることが分かる。だからこそ判断基準によって公平のとらえは変わることや多様な判断基準があることを理解する段階に向けていくことが求められる。本授業においては、学習を進めていく中で公平か不公平かを判断することの難しさに気づき、公平性を保つための判断基準を持つ大切さを理解し、差別や偏見のない社会を築こうとする判断力を養うことが重要である。

指導観

導入では身近にある「公平と不公平」の事例を紹介し、日常生活の中には公平か不公平かどうか微妙な事例が多く存在することに気づかせる。またペアで「不公平」を感じた経験を振り返らせる活動を通して、日常生活と結びつけながら本時の学習に対する意欲を高めるとともに主題について課題意識を持たせる。

展開前半では3つの事例を紹介し、1つの事例を指定しグループで「公平か不公平か」分類する。その際にホワイトボードを活用し、どの程度公平かあるいは不公平かを可視化できるように名前の磁石を貼り、意思表示できる工夫を行う。グループで公平か不公平か対話を通して、他者の考えを参考に多面的・多角的な視点で自分の考えを深めていきたい。またグループで出た意見を全体で交流することで、さらに多くの視点で「公平・不公平」について認識を深めたい。

展開後半では、生徒同士の議論や教師による切り返し発問を通して公平か不公平か判断するのは、人それぞれの考え方の違い、立場、状況によって判断が難しいことに気づかせる。その後、中心発問である「公平か不公平かを判断するときに考えなければならないこと」を問うことで、多面的・多角的に判断する際の考えを出させていく。その際に、グループで話し合あったホワイトボードや議論の内容にも着目させながら、多様な意見を出させたい。この活動を通して、公平の判断基準が1つではなくたくさんあり、人それぞれの考え方によっても変わってくることから判断が難しいこと、だからこそ多くの視点を持ち、日常生活でも考えながら生活していくことの重要性に気づかせたい。

本時の学習

- (1) 目標：公平とは何かを考えることを通して、公平・不公平を判断する道徳的判断力を育てる。
 (2) 評価：公平という概念に対して新たな気づきや発見が見られ、公平を判断する難しさや大切さについて記述がある。（授業での発言・ノートの記述）
 (3) 学習展開

	学習活動	主な発問・予想される生徒の反応 ○：発問 ◎：中心発問 補：補助発問 問：問い返し	指導上の留意点 発問の意図 手立て
導入 5分	1.主題について課題意識をもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">公平とは何だろう。</div>	○日常生活で不公平と感ずることがあるか？ ・男子と女子の扱いの違うこと ・お金持ちと貧しい人がいること	・ICT を活用し補足的に公平か不公平か判断が難しい事例を紹介する。
展開1 25分	2.教材について考える 3.グループ・全体交流	○次の3つ事例は公平か不公平か個人で考えを書こう ○指定された事例についてグループで公平か不公平かを交流しよう。 【年齢によってお年玉額が異なる例】 ・姉妹であってももらえる額が異なるのは公平ではない ・お姉ちゃんは高校生だからお金がたくさん必要なので公平だ 補じぶんが妹の立場だったら？（公平派） おじいさんはなぜ差をつけたのか？（不公平派） 【車椅子の優先入場】 ・様々な乗り物で行われているので公平だ ・車いすで付き添いの人まで一緒に入場できるのは不公平だ 補自分が車椅子を使用していたら（不公平派） 車椅子の人が区別されるのを嫌がっていたら（公平派） 【字が綺麗という理由で1人がまとめる】 ・本人が納得しているなら公平だ ・1人だけに押し付けるような形で毎回やらせるのなら不公平だ 補仕事を任せられたCさんの気持ちは（公平派） Cさんが毎回やるよと言ったら？（不公平派）	・根拠を明確にしてワークシートに理由を記述させる ・グループに事例を割り振り、公平か不公平か交流する。 ・全体で交流し、疑問点や共通点を確認する
展開2 15分	4.公平・不公平の判断基準を持つことの大切さに気付く	◎公平・不公平を判断するときに考えなければならないことはどんなことだろう？ ・年齢による違い ・障がいがあるかないか ・その人の置かれている状況や立場 ・その人が納得しているかどうか	・自分の立場と逆の立場の意見も考えさせる
終末 5分	5.公平・不公平について今日の学びを振り返る	○公平について、考えたことを書いてみよう。	・自分の日常生活を想起しながら考えさせる
	振り返り（例） 公平・不公平を判断するのは人それぞれで感じ方や基準が異なるので難しいと思った。だからこそ色々な視点で出来事が公平か不公平かを総合的に判断していくことが大切だと分かった。		

(4) 板書計画

自分に
+1

○公平について考えたこと

○公平・不公平を判断するときを考えなければ
ならないことはどんなことだろうか？



ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

公平とは何か

公平と不公平

○3つの事例は公平か不公平か

【ホワイトボードの例】

お年玉の金額の違い

公平	←	名前	名前	名前	→	不公平
<p>高校生は小学生より多くお金を遣うので公平です。</p>			<p>おじいちゃんが亡くなってしまつとトータルでもらうお金が等しくならぬので公平か不公平か判断が難しい</p>			<p>小学生の立場だつたらおじいちゃんがお姉ちゃんをかわいがつていとしか思えない。</p>

車椅子の優先入場

公平	←	名前	名前	名前	→	不公平
<p>列に並ぶと大げがをしつてしまうので安全を考えたら公平</p>			<p>車椅子の人が入るのは公平だけど付き添いの人まで入れるのは不公平だ。</p>			<p>みんなは並んで待つているのに車椅子の人だけ先に入るのは不公平だ。</p>

字の綺麗さで仕事を任される

公平	←	名前	名前	名前	→	不公平
<p>周りのみんなにとつて字の綺麗な人と読みやすいので公平だ。</p>			<p>本人が納得してければ公平だが、ずっと書き続けるのは不公平だ。</p>			<p>字が綺麗だからとつて特定の人に押し付けてるのは不公平だ。</p>